

目的 世界各国における栄養状態を概観すると、経済その他の因子によるエネルギー供給量の不足、Protein gap、微量栄養素の不足が見られる一方で、飽食に起因する疾病増加も見られる。このような世界的栄養の不均衡を把握するため、食糧需給表を用いて、各国、各地域の栄養摂取量を解析、比較することにした。

方法 FAO/WHO/UNU:世界食糧需給表(1984)を用い、記載46カ国における一人一日当たりの食糧供給量をもとに、四訂食品成分表、日本食品アミノ酸組成表(1985)、食品の脂肪酸等含量表(医歯薬出版(1985))を用いて、総エネルギー、各熱量素エネルギー比、必須アミノ酸、脂肪酸(P/S, n-3/n-6)、コレステロール、食物繊維、無機質、ビタミン量を算出した。これら摂取量と、GNP(1984)との関係を考察した。

結果 各国別集計結果を、地域的に分類して比較した結果は次の通りである。アジア、アフリカ、ラテンアメリカについては、総エネルギー摂取量、脂肪エネルギー比、動たん比、アミノ酸スコア、カルシウム及び、鉄摂取量、ビタミン摂取量がいずれも低く、糖質及び穀物エネルギー比が高かった。一方、ヨーロッパ、北米、オセアニアについては、総エネルギー摂取量、脂質エネルギー比、動たん比、アミノ酸スコア、カルシウム及びビタミン摂取量が高く、糖質及び穀物エネルギー比が低かった。GNPと正の相関を示したものは、脂質エネルギー比、動たん比、負の相関を示したものは、糖質及び穀物エネルギー比であった。近年GNPの大きな飛躍を遂げた日本及びサウジアラビアにおいては、欧米型に近い一方で、穀物摂取の面では伝統的食形態を保っていることが分かった。